

巻頭言
Greeting

×

鳥居 完次

Kanji Torii
聖書宣教会 理事長
(山形第一聖書バプテスト教会牧師)

Profile

1947年横浜市生まれ。大学で土木工学を専攻、横浜市役所で地下鉄建設に従事。聖書神学舎 17期卒、秋田県湯沢で9年牧会、1985年から山形第一聖書バプテスト教会牧師。



「キリストの御姿を知る」ピリピ 3:8

この度、聖書宣教会の理事長の(青天の霹靂とも言うべき)立場になって、第60回目の卒業式に出席しました。あれから43年の月日が経つのだと、つくづく思われます。時代の変遷とともに、神学校並びに神学生自身を取り巻く環境も、大きく変化していることは否定できない事実です。しかし、「イエス・キリストは、昨日も今日も、とこしえに変わることがありません。」(ヘブル 13:8)とあります。そこに、私たちの原点があることを改めて確認させられます。その意味では、神学校の学びの目的は、結局はその変わることのない「キリストの御姿を知る」ことに尽きると言えます。

実は、私の神学舎の卒論は「ピリピ書 2章 6節～11節における *μορφῆ θεοῦ* (神の御姿)の意味について」でした。その意味の結論は、「本来変わることのないキリストの神性全体を指すものであり、それはパウロにとっては、ダマスコ途上で会ったキリストの可視的栄光の姿で代表されるものである。」というものでした。そしてさらに、「まさにパウロは、そのキリスト御自身をただ観念的にだけでなく、全人格を通して知ったのである。だからこそ彼は、『私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、私はすべてを損とと思っています。』(ピリピ 3:8)と告白しているのである。」と結びました。今思うと、なんと分かったような物言いかと恥ずかしくなります。つまり、少な

くともパウロが「私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさ」とまで、言いきることができた根拠としての「キリストの御姿」を、その時の私はどのくらい知っていたのか、見えていたのか問われるのです。もちろん、そこに導かれるまでには、それなりの学びの格闘があったことは事実です。しかし、その格闘の中で、熱心にダイアグラム方式によるギリシャ語の釈義の方法を教えてくださいました。綾部ヘンリー先生が力説しておられました。「聖書は、神のことばとしての特質をもっているのだから、神が語られたことばの意味は、聖霊の働きによって悟るほかはない。」確かにその意味では、この私も「キリストの御姿」のほんの断片を御聖霊によって確認させられていた、とすることができます。

今年の聖書宣教会卒業生も、「キリストの御姿」の断片をしっかりと握りしめて、それぞれの地に遣わされて行きました。願わくは、その断片がジグソーパズルの断片のようにさらに細分化されて、「キリストの御姿」がより鮮明に映し出されていくことを、祈ってまいります。

No.177 Topics

- p03 新入会生紹介
- p04、05 卒業生の紹介とあかし
- p06 卒業生を迎える教会の声
- p07 学びの窓

赤坂 泉
Izumi Akasaka
聖書宣教会 校長

「あなたには、すべてのことができること、
どのような計画も不可能ではないことを、
私は知りました。」ヨブ 42:2

新しい出発

卒業式にはいつも大きな喜びと主への感謝が心に溢れますが、一抹の寂しさや不安も拭えないのは親心のようなもの ... 今年もそのような心持ちで6名を新たな地へと送り出しました。

新入生を迎えることも喜びであり感謝です。多様な背景を持つ兄弟ですが、今年の特徴の一つは年齢幅が小さいことです。どんなまともり感を見せてくれることになるのでしょうか。もう一つ、5人のうち2人がすでに伝道者として歩んできた生涯の途上で一度踏みとどまって、再度の、新たな教育と訓練を願ってこの学舎に導かれたことがあります。地上の教会は時として残念な混乱を経験します。組織を盲信したり、指導者に盲従するのでなく、神に聞き従うのが教会であるはずです。それが迷走するのは途上にある教会の未熟のためであり、悪しき者の惑わしのためです。私たちは、いつも神のみことばに熱心に聞き入り、神のみを恐れて神に従う教会へと成熟させられたいと思います。研修生、同窓生一同、また学舎の歩みもそのように主に整えていただけますように。

前号でお知らせした春の特別教師会のためにお祈りいただき感謝します。世代や世相の変化について分かち合い、主の求める献身者の姿を思い描きながら、学舎の働きのこれからのために祈り合う、幸いな時を得ました。感謝と一致の中で新年度の出発をしています。

恵みに支えられて

研修生と家族寮の面々、教職員一同、いささか

の健康課題もありつつ、支えられています。個々の、また学舎の経済的な必要も、主が必要な分を備えてくださっています。今春は新しい給付奨学金も加えられ、豊かな恵みをもって私たちを支え、励ましてくださる主をあがめています。主の備えを尋ね求める課題は尽きることがありませんが、恵みの御手に期待しています。どうか続けてお祈りください。

この先

今年の「祈りの日」のために、前期には三浦春壽師、後期には森恵一師が奉仕してくださることを感謝します。「教会音楽のひととき」の備えも進んでいます。特別講義では久利師に奉仕をお願いしています。D. ブロック師を迎える夏期研修講座、教会音楽夏期講習会、研修生のキャラバン伝道など、夏の諸活動のためにも備えが続いています。それぞれの目的にかなって用いられることを信じています。現在の大きな課題は聖書学研究所の始動準備です。専従の教職員の人事の必要も大きな課題です。

来春は10名が卒業予定で、働き手を送り出せることは喜びですが、もっともっと多くの伝道者が必要です。直接献身の召しに応答する者たちが多数起こされますように、諸教会とともに祈ってまいります。

皆様の日頃のお祈り、お支えに心から感謝いたします。その禱援で、学舎は、文字通り教会のわがとしてここに 있습니다。私たちも諸教会のために祈っています。主が、ご自身のからだなる教会を整え、祝福して、主の目的のために用いてくださいますように。



左から、石川、李、木津、鈴木、本多

氏名	出身教会	奉仕教会
聖書神学舎本科 [4名]		
李 相扶 <small>い きんぶ</small>	単立 東明国際キリスト教会	東明国際キリスト教会
木津 健博 <small>きづ たけひろ</small>	日本福音キリスト教会連合 OMFザ・チャペル・オブ・アドレシオン	武蔵台キリスト福音教会
鈴木 直基 <small>すずき なおき</small>	日本福音自由教会協議会 長野篠ノ井福音自由教会	長野篠ノ井福音自由教会
本多 卓也 <small>ほんだ たくや</small>	KPCA日本老会 ヨハン東京キリスト教会	飯能キリスト聖園教会 <small>はんのう せいえん</small>
聖書神学舎聖書科 [1名] [聖書専攻]		
石川 礼 <small>いしかわ れい</small>	日本福音自由教会協議会	東大宮福音自由教会 川口福音自由教会

突然の声

李 相扶

私は大学に入って、クリスチャンのサークルに入りました。その年の夏休みに、ある主事から突然、日本に短期宣教に行かないか、という声がありました。それが初めての来日でした。日本の方々に会ってから日本についての偏見も変わり、この国の魅力を感じて、留学まで来るようになりました。大学教授を目指して修士を修め、博士課程に入りました。学校に行けば、いつもそばには担当の教授がいました。論文を書く時期が近づく頃、格好良く見えた大学教授の姿が逆に研究室に縛られているように見えました。それまで持っていた憧れが崩れ始め、もはや格好良くも見えませんでした。

その時から、これからどうすれば良いのかと悩みました。

突然、心の中に神様から御声がありました。献身すればどう、という御声が。神様にまるまる用いられるのはフルタイムの伝道者になる事だと確信して、伝道者として自分を主にささげて歩み始め、この度の入会へと導かれました。

主のおきて

木津 健博

「苦しみに会ったことは、私にとってしあわせでした。私はそれであなたのおきてを学びました。」(詩篇119:71)。22歳の時、このみことばの「おきて」と今まで何度も聞いていた神様の愛が不思議と完全に結びつき、頭ではなく心からこの詩篇の告白の恵みに与りたいと思い、信仰告白しました。初めて直接献身への思いが与えられてから、召しの確認、妻との完全な一致、所属教会との共有、という段階を経て、今年度入会に至るまで約9年の歳月を要しました。ひたすら主に聞き続け、時には格闘し、その時は先の見えない荒野にいるようでしたが、今振り返るとこれらの準備期間は完全な主の「おきて」でした。「なくなる食物のためではなく、いつまでも保ち、永遠のいのちに至る食物のために働きなさい。」(ヨハネ6:27)。このみことばとイエス様のペテロへの愛によって最終的に召しを確信しました。— 主よ「福音」を語り伝える器にどうかならしめてください。



左から、藤本、新井、小山、野村、中西、湯本

氏名	出身教会	奉仕先
聖書神学舎本科 [6名]		
おやま あつし 小山 敦史	湘南ライフタウンキリスト教会	日本福音キリスト教会連合
なかにし たけひこ 中西 健彦	北栄キリスト教会	日本福音キリスト教会連合
のむら けいすけ 野村 啓祐	札幌希望の丘教会	日本福音キリスト教会連合
ゆもと しやらい 湯本 赦頼	山手教会	日本基督教団 活水の群
あらい ともなり 新井 智也	自由ヶ丘キリスト教会	日本福音キリスト教会連合
ふじもと しこう 藤本 仕光	八王子キリスト福音教会	単立
		長津田キリスト教会
		北栄キリスト教会
		札幌希望の丘教会
		飯田知久町教会
		キリスト教朝顔教会
		キリスト道教会アライヴ

みことばにおののく者

小山 敦史

みことばへの態度を問われた4年間であったように思います。みことばの学びは本当に感謝なものでした。みことばに養われ、みことばに励まされる日々でした。しかしその一方で、みことばに立ちきれない自分がいたことも事実です。みことばよりも周りの目を気にしてしまい、人の評価に心が騒いでしまう弱さ愚かさがあります。

みことばに立つことと立ちきれないことの間で揺れ動いていた私に、「わたしが目を留める者、それは…わたしのことばにおののく者だ」(イザヤ 66:2)というみことばが示されました。心が探られました。神さまに対する心のありようを問われました。みことばに平伏すしかありません。

今、任地へと送り出されます。祈りと献金によって支えてくださった教会、愛と忍耐をもって指導してくださった先生方、いつも話を聞いてくださった職員の方々、ともに学びともに祈った戦友たち、そばにいて励ましてくれた妻、そして召しを与え導いてくださる主に心から感謝します。

神学舎で与えられた恵み

中西 健彦

今日に至るまでの主の導きと、皆様のお祈りとご支援を心から感謝致します。

聖書神学舎での学びを通して、みことばには力があり、聖書には無数の宝が隠されているという確信が増し、それを掘り下げるための道具を与えられたように思います。原語から聖書を読む中で、「このみことばは、ここまで深いことを語っていたのか…!」と静かな感動を覚えた経験は数え切れません。この先も、ひたすらその神のことばに聴くことを求め、それによって自らも教会も養われたいと思います。

また、この4年間で多くの尊敬すべき信仰者たちとの出会いが与えられたことは、私にとって大きな財産です。豊かな聖書知識と献身者の生き様を教えて頂いた先生方、共に学び舎で過ごした研修生たち、奉仕教会でお世話になった方々、そのお一人お一人との交わりはかけがえのないものです。その恵みを覚えつつ、これからも一足一足主にすがって歩んで参りたいと思います。

最高の卒業

野村 啓祐

聖書宣教会での学びと訓練の日々を感謝いたします。振り返ると、この4年間はただ神様に助けられた日々であったことを覚えます。私は「卒業」と聞くと、力をつけて立派になった人間が旅立っていく、というイメージをもっていました。しかし今、自分自身を見ても、力がついたわけでもなく、立派になったわけでもないことがわかります。そんな私が卒業できたのは、ただただ神様の恵みとあわれみによるものです。

このようにすばらしい卒業を、私は今までに経験したことがありません。なぜなら、たとえ自分がどんなに弱くても、神様が助けてくだされば大丈夫であることを実感するからです。どんな困難に直面しても、神様が教えてくだされば解決できることを確信するからです。こんな最高の卒業を与えてくださった神様に心から感謝いたします。これからもこの神様を礼拝し、助けと教えを求め続けて、平安の内に神様と教会に仕えていくことを願います。

わたしに触れたのはだれか

湯本 赦頼

「閉ざされたとしても、献身の道を今日ここまで歩ませてくださったことを、只々感謝致します。」入会試験前夜、そんな祈りを捧げていたことをふと思い出します。

今の心境も、あの時と似ています。これからの不安もありますが、とにかくここまで私を赦し、愛してくださった主に感謝致します。聖書を学び続け、語り続ける素地を養ってくださり、先生方や同労の姉姉との深い交わりの中に置いてくださり、そして、一度お捧げした結婚へと導き、御自身の教会へと遣わしてくださいました。

恵みを数える時、長血の女を呼ばわたった主のみことばが、私自身への問いかけとして心に響きます。「わたしに触れたのはだれか」(ルカ 8:45)。そうです、主よ、私です。私は確かにここで、あなたに触れました。そして、驚くべき主の御業を見たのです。

主がお許しくださる限り、確かに与えられた十字架の愛を、人々に証しし続けて参ります。尊いお祈りとご支援に心から感謝しつつ。

主よ、あわれんでください。

新井 智也

こうして卒業を迎えることが許されたのは、神のあわれみ以外に何物でもないことを思い、主の尽きない恵みとあわれみに感謝致します。学びと訓練の中で、自分の罪と向き合わされ「もう無理だ」と諦めることが何度あったことだろう。主は、その度にいつも必要なみことばを与えてくださり、自分に与えられている召しを確認させられました。「主よ、あわれんでください」とただ祈ることしか出来ない中で、みことばに信頼することを教えられたのは、試練と共に大きな恵みでありました。この学舎で学んだことを通して、これからも与えられている召しに従い、遣われた教会で、みことばを忠実に宣べ伝え、教会に仕えさせて頂きたいと心から願います。最後に、どんな時にも祈り支えて下さった、研修生、教会、友人、家族と、非常な忍耐を持って教え導いてくださった先生たちにこの場を借りて心から感謝致します。

ここに來られてよかった

藤本 仕光

私にとってこの神学校で学ぶ意義は、自分の信仰を客観的に知ることになりました。牧師である父が過ちを犯し、教会が傷つき、分裂するのを経験している私は、直接献身の召命が与えられてから、改めて聖書から、自分に与えられてきた聖書観のどこが間違っていて、どこが正しいと言えるのかを学ぶ必要に迫られました。その点で聖書宣教会に導かれたことは本当に幸いでした。神学ありきの聖書の読み方ではなく、誠実な積義から聖書の言っていることに目を留める作業は、信仰や教理理解をチェックするために不可欠なものでした。学び続ける中で、様々な事柄において聖書理解がチェックされてきました。卒業を迎えた今、そのチェックは最後まで果たされたとは到底言えませんが、これからの牧会の中で、聖書の積義によって、あらゆる働きがチェックされ続ける牧会者になりたいと願っています。みことばを扱うのではなく、みことばに扱われる幸いを学ぶために、神学舎に導いてくださった主に感謝します。

04 卒業生を迎える教会の声 From Churches Where New Graduates are Serving

今と後の日のために

須田 丈夫

Takeo Suda

長津田キリスト教会 牧師

私たちの教会では、教会ビジョンに向かうための計画の一つに伝道師の招聘を挙げ、祈り求めて来ました。牧師と共に伝道師に教会の働きに加わっていただき、子どもから高齢者までの幅広い年齢層の方々に対して、教会の働きがより豊かにされることを願っています。また、神学校を卒業した献身者が牧師となる前に伝道師として経験を積むことができる働きを提供する使命が当教会に与えられていると考えています。

そのような祈りと願いの中で今年度、聖書宣教会を卒業した小山敦史^{あつし}伝道師を迎えることができました。主の導きに感謝しております。小山伝道師は就任当初より何回か求められて挨拶をする中で、主に仕え、牧師に従い、牧師と共に働きを進めていきたいと繰り返しておられます。宣教会での指導のゆえであると思います。

若い伝道師ご夫妻が来られて、教会に喜びと期待が与えられています。小山伝道師に与えられている賜物が生かされ、主のみわざの中で用いられるように祈っております。当教会において、様々な経験を積んでいただき、やがて牧師として働きを進める時に益となるようにと願っております。

事務室で 須田牧師(右)と小山伝道師(左)



教会が育てた器を迎える喜び

松元 潤

Jun Matsumoto

前任：北栄キリスト教会、現在：若葉キリスト教会 牧師

教会に仕えて35年、地方の神学校の責任を任されて6年、その間いつも思って来たことがあります。それは、教会の祈りによって神学校へと送り出される献身者は、どの地に遣わされるとしても、あるいは母教会に帰ってくるとしても、どちらであっても送り出した教会が皆で喜べるような人材であるべきではないか、ということです。もちろん、主の憐れみの中に私を含めた全ての器があるのが前提であって、欠けがないという意味ではありません。少なくとも神とその献身者の関係を信頼できるという視点が必要なことではないかと思います。

そして、当時は全く考えていなかったことですが「主が遣わすどの地でも、私たち教会が育てたこの器を用いてください」という総意で送り出した神学生の卒業と私の定年退職が同年になりました。牧師招聘実行委員会・責任役員会では、私の定年後の牧師候補として最初に数人の名前が挙がりましたが、結局、自分たちが送り出した神学生について最初に考えるべきという一致が与えられた

のです。私は誰の名前も挙げませんでしたが、役員たちの決断は教会自身が牧師として迎えたいと願える神学生を送り出したことを証明していました。主のみわざに感謝しかありません。牧した教会が今後も主のみこころを選び取ると信じて、私も今新しいスタートに立っています。『主が良くしてくださったことを何一つ忘れるな(詩篇 103:2)』

松元師夫妻と中西牧師(北栄キリスト教会で)



人名研究の面白さ (その2) 「モーセ」はエジプトの人名か?

鞭木 由行

Yoshiyuki Muchiki
聖書宣教会 研究図書主任・図書館長

先日、出エジプト記のある注解書の紹介文を頼まれたとき、モーセがエジプトの人名であることが当然であるかのように扱われていました。批評学の立場で書かれたものでしたのでやむを得ないと思いましたが、最近ゴードン・コンウェル神学校でお世話になったスチュアート先生の注解書(NAC)を見てもエジプトの人名であることを承認した理解でした。モーセがエジプトの人名であることは、今日広く受け入れられていますが、これはそれほど単純な問題ではありません。

聖書のモーセが、エジプトの人名 $m\acute{s}$ (名詞「子」、動詞「生む」) であると主張され始めたのは、今から 100 年以上も前のドイツのエジプト学者たちによってでした。モーセの時代の古代エジプト文書には $m\acute{s}$ という人名が多く発見されていますし、また神の名前と結びついて $m\acute{s}$ -3st 「(女神)イシスの子」とか、 r' - $m\acute{s}$ -sw 「ラー(神)が彼を生んだ(ラメセス)」等多くの名前が残っています。ですからエジプト学者たちがエジプトの人名に注目したのは当然のことでした。しかし、ここには音の対応という根本的な問題が存在します。エジプトのモーセ(?) は $m\acute{s}$ と表記しますが、聖書のモーセは $m\check{s}$ (h) と表記されています。果たしてエジプト語の \acute{s} は、ヘブル語の \check{s} に対応するのかどうかという問題です。対応する証拠としてアッカド語の表記が持ち出されたりしますが、北西セム語にはそのような対応はひとつも見つかっていません。J. G. Griffiths は、この問題を詳しく論じた英国のエジプト学者ですが、彼がエジプト語の \acute{s} とヘブル語の \check{s} とが対応している証拠として提示

したのは、すべてエジプト語とヘブル語が共通の語源を持つ言葉に限られ、おまけに人名の場合にはそのような用例がないことを認めています。そればかりか、聖書の中には両者が対応していないことを示す実例があります。上記のラメセスのヘブル語表記は r' - ms - s ですが、この ms はエジプト語の $m\acute{s}$ です。このことはエジプト語の $m\acute{s}$ はヘブル語の ms で表記されることを示しており、モーセの場合だけ $m\check{s}$ と表記したと考える必要はないでしょう。 s と \check{s} はきちんと聞き分けられていたのです。

最後のヒントは聖書にあります。出エジプト記 2 章 10 節にはモーセが命名された次第が記されています。誰が名前を付けたのかということは大きなポイントです。もしモーセの母が名付けたのであれば、ヘブル名でしょうし、ファラオの娘が付けたのであれば、エジプト名でしょう。「その子が大きくなったとき、母はその子をファラオの娘のもとに連れて行き、その子は王女の息子になった。王女はその子をモーセと名づけた。彼女は『水の中から、私がこの子を引き出した ($m\check{s}h$) から』と言った。」新改訳 2017 も協会共同訳も王女が名付けたと解釈していますが、第 3 版では原文のまま「彼女」となっていて、主語が母か王女かは読者の判断に委ねられています。名前の由来を示すヘブル的習慣がその後に続いている文脈を考えれば、王女がヘブルの習慣に従って命名するとは考えられないので、この「彼女」はやはりモーセの母ではないかと思います。それは文脈上も十分可能です。以上からモーセをエジプトの人名と見なす必要はないでしょう。

○ 図書館から — リサーチ・ライブラリを目指して (4) —

津村 俊夫

Toshio Tsumura

聖書宣教会 前 研究図書主任・図書館長

『研究図書館』の実現のために、始めから大きな器(建物)を準備するのではなく、聖書研究に特化した図書館として、必要な基本図書を充実させるようにしています。世界の研究所がオープン・ライブラリー方式を採用し、専門書や学術雑誌の一部をネットに公開するようになって来ています。これらの情報を集めてデータベース化したり、電子版での本・雑誌・諸論文を集めることにしました。未だ道半ばですが、今や、情報がないから、羽村にいたのでは学問が出来ないとは言えない時代になっています。ネット環境があれば、ウェブ検索によって情報を得ることが出来ますし、学者のフェイスブックと言われる Academia.edu (宣教会の教師、卒業生、学生は bibleseminary.academia.edu で登録可。無料)によって必要な論文を入手することも出来ます。

宣教会の図書館としては、年間 100 万円以上もする検索ソフトは常設していませんが、身近にいる先生方から情報を得るなり、海外のデータベース(私はハーバード大学の Alumni として JSTOR, ATLA などにアクセスできます)を調べたり、ティンデル研究所のデータサービス(有料)を利用したり出来ます。日本語の文献だけに頼るなら限りがありますが、英語等の文献を読む努力を厭わないなら、可能性はぐんと広がるのです。次回は、『聖書学研究所』についてお知らせしたいと思います。

○ 2018 年度収支決算概要 / 2019 年度収支予算概要

単位/千円

収入の部	2018年度予算	2018年度決算	2019年度予算
維持献金	28,500	28,540	28,500
指定献金(研修生)	26,300	27,093	25,000
特別指定献金	8,500	16,808	8,700
その他収入	9,111	10,521	20,110
収入の部合計	72,411	82,962	82,310

支出の部	2018年度予算	2018年度決算	2019年度予算
活動費	6,460	5,409	6,180
管理費	15,582	14,498	15,450
人件費	33,769	33,561	33,014
諸準備金繰入	8,500	16,808	8,700
その他支出	8,100	12,662	18,966
支出の部合計	72,411	82,938	82,310
収支差額	0	24	0

主の御名をあげます。

2018年度も、日々主にある皆様方の温かいお祈りと献金のお支えをいただき心より感謝申し上げます。

今年度も、収入の部で、大きな祝福を受けました。特に奨学金指定が多く献げられ、厳しい環境の中で学ぶ研修生にとって大きな励ましになりました。新年度予算は、念願の聖書学研究所構想の具体化の予算を計上しました。予算が満たされるようお祈りいただけたら幸いです。

以上感謝をもって報告させていただきます。
(聖書宣教会財務)